## 第5回県政知事懇談

# 湯崎英彦の地域の宝 チャレンジ・トーク (大崎上島町)

と き 平成26年7月5日(土) ところ 大崎上島町東野保健福祉センター

			目		边	Ż				頁
開	会 …	••••	 	•••••	• • • • • •		• • • • • •	 		 1
知事挨	拶 …	•••••	 		• • • • • • •		• • • • • •	 		 1
事例発	表者系	四介…	 		• • • • • • •		• • • • • •	 		 $\cdots 2$
事例発	表①・	••••	 		• • • • • • •		• • • • • •	 		 2
事例発	表②・	••••	 		• • • • • •		• • • • • •	 		 ·11
事例発	表③・	•••••	 	•••••	• • • • • • •		• • • • • •	 	• • • • •	 ·18
事例発	表④・	•••••	 	•••••	• • • • • • •		• • • • • •	 	• • • • •	 ·21
関	会		 					 		 .93

広島 県

## 開 会

#### 〇司会 (槙埜)

皆さん,こんにちは。(「こんにちは」の声あり)大変長らくお待たせをいたしました。 ただ今から「湯﨑英彦の地域の宝チャレンジトーク」を開催いたします。

私は,広島県広報課の槙埜と申します。

本日は、チャレンジに向けて、元気の出る楽しい会にしたいと思います。どうかよろし くお願いいたします。

## 知事挨拶

#### 〇司 会

それでははじめに、湯﨑英彦広島県知事がご挨拶を申し上げます。

#### ●知事 (湯崎)

皆様,こんにちは。(「こんにちは」の声あり)今日は土曜日の午後で、大変お忙しいと きではないかと思いますけれども、皆様、お集まりいただきまして本当にありがとうござ います。

大崎上島にお邪魔させていただくのは、これで3回目となりました。前回もこの会場で やったのではないかと思いますけれども、今日もたくさん来ていただいて、ありがたく思っ ております。

これまでこの県政懇談会は各地で開催させていただいておりますけれども、既に今回までで 58 回を数えるようになりまして、489 名の方に発表いただいております。今日4名 発表いただくと 490 人を超え、今年じゅうには 500 人にいくかなという感じです。

ずっと私が申し上げてきたのは、いろいろな発表、それからご意見をいただく中で、これを県政の隠し味にしたいと。味噌樽に入れる味噌のように、しばらくすると、混然一体となっておいしいお味噌ができる。そんなことになってきたと私は思っていますし、このチャレンジトークは地元の皆さんにそれぞれの様々な挑戦を発表いただくという趣向になっていまして、いつも皆さん、お帰りになるときに「よかったな」とおっしゃっていただいております。そういう意味では、今日もまたたくさん元気がいただけるのではないかというふうに期待をしております。今日は4名の発表者の方にお願いをしております。

そして、ここに来る前は、午前中、今日も発表いただきますけれども、「ファームスズキ」にお邪魔をして、今、牡蠣を中心とした養殖を塩田跡でやっておられますけれども、そこを訪問させていただきました。それから、途中、「大崎クールジェン」という、今、新しく建設している発電所ですね。IGCCという、これは世界最先端の発電所なのですけれども、これが大崎にあるというのがすばらしいと思いますけれども、そこを見て、その後、「シト

ラスかみじま」という、これはフルーツ農園、レモン等の柑橘を栽培されておられますけれども、これも3年前に訪問させていただいて、それからレモンの木も、とても大きくなって、それまではなかったハウスもどわっと並ぶようになって、すばらしい発展を拝見させていただき、そういうところを回らせていただきました。

この一連の訪問場所であるとか、あるいは今日のこの会も、高田町長をはじめとして、 大崎上島町の役場の皆様に大変お世話になりました。この場をおかりしてお礼を申し上げ たいと思います。

これから 70 分ほどの発表会になりますけれども、終わったころにはとても元気をいただけると思いますので、ちょっと長い間になりますけれども、どうぞ最後までお付き合いいただければと思います。よろしくお願いいたします。(拍手)

#### O司 会

湯崎知事、ありがとうございました。壇上のお席にお移りください。

## 事例発表者紹介

#### 〇司 会

それでは、本日の事例発表の皆様をご紹介いたします。発表者の皆様は、恐縮ですが、 檀上に一度お上がりください。順にご紹介させていただきます。

まず、大崎上島の養分豊富な塩田跡の養殖池にて牡蠣や車エビ、アサリなどを養殖しているファームスズキ代表の鈴木隆さんです。(拍手)

大学卒業後は、地元大崎上島に住み、働きたいとの思いを実現し、大崎上島の魅力発信に貢献している「みんなと島のおみやげをつくりたいんよ実行委員会」代表の円光歩さんです。(拍手)

生徒会活動を通じ、大崎上島町の更なる魅力発信に取り組んでいる大崎上島中学校3年 生 正出七瀬さんです。(拍手)

高校卒業後は保育士、幼稚園教諭の資格を取得し、地元大崎上島で働くため、日々学業に励んでいる大崎海星高校3年生の鼻戸莉菜さんです。(拍手)

どうもありがとうございました。事例発表者の皆様は、一度お席にお戻りください。

ここからは湯崎知事にコーディネーターをお願いしたいと思います。それでは、湯崎知 事、どうぞよろしくお願いいたします。

## 事例発表①

#### ●知 事

それではよろしくお願いいたします。今,ご紹介ありましたように、今日は4名の皆さ

んに発表をいただきますけれども、それぞれ地域であるとか、あるいは学校、職場でいろいるな挑戦をされている方々です。

最初に発表いただくのは、「ファームスズキ」代表の鈴木隆さんです。

鈴木さんをご紹介させていただきますと、鈴木さんは東京のご出身で、大崎上島の山々の湧き水と瀬戸内のきれいな海水が流れ込む、養分豊富な塩田跡の養殖池で、牡蠣、車エビ、アサリの養殖をされています。先ほど私もお伺いして、ちっちゃな牡蠣の稚貝を顕微鏡で見させていただいたりしたのですけれども、稚貝から育てていらっしゃいます。この牡蠣は、香港や台湾など海外に販売されておられまして、高級レストランなどで提供されています。

また、オイスターハウスであるとか、潮干狩り場、バーベキュースペースを設置して、 島外の方々との交流や観光客の誘致にも取り組んでいらっしゃいます。

今日の発表のテーマは、「大崎上島から世界へ」です。それでは、よろしくお願いします。

#### 〇事例発表者(鈴木)

いつもお世話になります。東野のほうで牡蠣,アサリ,車エビを養殖しているファームスズキの鈴木です。

いつも島の方々には、年末、毎年たくさん車エビを買っていただいておりまして、ファームスズキイコール車エビ養殖場という印象をお持ちの方が大変多いとは思うのですけれども、今日はちょっと、車エビもあるのですけれども、牡蠣の話を少しさせてください。よろしくお願いします。(拍手)

まず、このスライドに映っているのが、私たちの養殖池です。ご存じの方も多いと思いますけれども、江戸時代につくられた塩田跡の池を利用した 10 万平方メートルの広大な養殖池です。私も世界中の養殖場とか、いろいろなところを回ったんですけれども、今では僕の中では一番のお気に入りの場所で、広島銀行からお金を借りて買いました。

簡単に自己紹介をさせていただきます。私は昭和51年に東京の豊島区で生まれ、幼稚園から高校までは埼玉の浦和で育ちました。中学生のころから、将来は水産大学に行きたいなという思いが強くて、本当は東京水産大学に行く予定だったんですけれども、残念ながら受験で落ちて、下関の水産大学校へ入学しました。在学中に、30歳過ぎたら自分で水産会社を経営してみたいという夢を持ちまして、ただ、まだそのころ学生だったので、20代のうちは大きい水産会社でいろいろな勉強をしようというふうに思い、大学卒業後、東京築地の水産物卸売り会社に就職しました。

主に私のそのころの仕事は、毎月東南アジア、ベトナムとか、タイ、インドネシアに行って、ブラックタイガーなどの冷凍のエビを輸入して、国内で販売する仕事を約10年やりました。そのころ、大きい会社だったので、夏も冬も休みが10日間ぐらいあるのですけれども、世界中でどんな水産物が好まれていて、どんな養殖とかされているのか知りたくて、見聞を広めようと思って、ヨーロッパやアメリカの市場、養殖場を見学していました。そ

のころ, どこに行っても食べられているのが, この牡蠣ですね。広島県といったら牡蠣というイメージがあるんですけれども, 日本の牡蠣と決定的に違うのは, このように全部生で食べられているということです。牡蠣は必ず生きていないといけない。生きた牡蠣をこのようにお店でむいてくれて, 生で提供しています。

これも,オイスターバーといって,カウンターの前に牡蠣が並んでいるような状態です。 牡蠣は,大体生牡蠣とパンという組み合わせで食べられています。

こういったものを見て、どうして世界中で牡蠣がこれだけ食べられているのに、日本の 牡蠣はないんだろうという思いが強くなって、僕は将来自分で日本の牡蠣を海外に販売す る会社をやってみたいなと思うになりまして、ちょうど私が32歳のときです。知り合いの 広島の牡蠣メーカーの社長さんに、そこの牡蠣メーカーでつくった牡蠣を海外に販売する 会社をやらせてほしいので、半分出資してくださいというお願いを私のほうからして、そ このメーカーでつくった牡蠣の加工品を販売する会社を立ち上げました。

海外ではこういうふうに売られています。

これが、ちょうど私がそのころ海外に販売を始めた牡蠣のむき身です。広島では結構おなじみのむき身ですが、これを冷凍したものを海外に販売していました。こういう感じで1kgの袋に入っています。

このような冷凍の牡蠣の加工品を海外に販売していたんですけれども、中級レベルぐら いのレストランやスーパーマーケットだったら、冷凍の牡蠣でいい牡蠣だねと販売しても らえるのですけれども、ハイクラスの、例えば四つ星とか五つ星ホテルになると、絶対に 牡蠣は生きていないといけないんです。生きた牡蠣じゃないと扱ってもらえないというこ とで、そうか、と思いまして、一番最初に広島の牡蠣いかだで養殖した牡蠣を、広島空港 からアジアのお客さんに販売したことがあるんです。そしたら、残念ながらちょっと不評 だったんです。何で不評かというと、日本でおなじみのいかだで養殖する方法というのは、 効率的にむき身をとる方法であって,どうしても密植になるので,牡蠣の形だとか,身入 りに非常にばらつきがあるということがわかりまして、それじゃだめなんだと。じゃあ、 実際にアジアで流通している欧米の牡蠣はどうやって養殖されているのか知りたくなっ て、勉強した結果、これはカナダの養殖場ですけれども、まず環境が、非常にすばらしい 自然環境の中で養殖されています。日本と違って、このように精子と卵子を牡蠣からとっ て人工的に種をつくるんです。これがちょうど受精卵です。顕微鏡で見た状態です。この ような受精卵に人工的にして, それをこういった水槽で一定の 5 mmサイズぐらいまで飼い ます。これはその牡蠣にあげる植物プランクトン,えさです。それを培養している光景で す。プランクトンは何種類か種類があって,種類によって色も違います。この牡蠣は小さ いときにたくさんえさを食べるので、えさづくりというのが非常に大事です。大体このぐ らい, 5 mmから 1 cm弱ぐらいの大きさまでは先ほどの水槽で飼育して, その後は今度は海 に出すんですけれども、日本のいかだと違って、こういうかごに、先ほどの小さい種を入 れて、海で育てていきます。

じゃあ、僕らもトライしてみようということで、今年、養殖場の中の、昔、稚エビを飼っていたハウスの跡があったので、そこを使って、広島県の海洋技術センターだとか、あとは水産課の協力を得て、このように牡蠣を実際に開いて、欧米と同じように卵子と精子を受精させて、受精卵をつくるところからスタートしました。写真は、ちょうど県の水産課の方が指導に来てくれているところです。

小指の爪ぐらいのサイズまで同じように陸上の水槽で育てます。育てた後は、ちょっと見にくくて申し訳ないですけれども、養殖かごに入れまして、先ほどの小さい牡蠣、稚貝をこの中に入れるわけです。そして、こういった形で養殖池に浮かせて、その中で育てていく。ちょっと写真が見づらくて申し訳ないですけれども、大体半年から1年弱で7cmから8cmぐらいの小粒の牡蠣ができて、海外だと小さい牡蠣のほうが非常に評価が高いんです。というのは、どうしても生きたものを開いて生で食べるので、大きい牡蠣はあまり好まれない傾向があります。

そして、私たちが今つくっているのは、この縦縞の「縞牡蠣」、僕らはストライプオイスターと呼んでいるんですけれども、この牡蠣は広島県の原生種の特徴を持った牡蠣で、もともと広島の海にいた牡蠣は、この色の牡蠣です。種類でいったら真牡蠣で同じなのですけれども、こういったきれいな模様のある牡蠣で、今は残念ながら三陸だとかいろいろな産地の牡蠣が入り交じって、広島の牡蠣も、真牡蠣も、全然形も色も変わってきてしまったんですけれども、もう一回この広島の原生種を育てていこうということで、こういった縞牡蠣から卵をとって、種苗生産をして、縞牡蠣をつくって海外に販売しています。

小粒です。 7~8 cmぐらいです。

塩田跡でつくる特徴としては、このように身の鰓の部分がグリーンになって、広島では うちだけだと思うのですけれども、フランスのマレンヌオレロンというところでは、この グリーンオイスターは非常に有名で、同じように塩田跡の養殖池で育てることによって、 このようなグリーンのきれいな牡蠣になって、フランスでは最高級の品種になっています。 こんな感じでグリーンです。

これをどうやって海外に出すかというと、大体 50 粒、サイズ選別した後に、このように 50 個、発砲スチロールに入れまして、もちろん、広島県大崎上島というシールを貼って、塩田熟成牡蠣、こういったような荷姿にして、これを広島空港に持って行くわけです。広島空港から毎朝 9 時にチャイナエアーが台湾に向けて飛んでいますので、このように、今度は飛行機のコンテナに積んで、9 時の飛行機に毎日乗って台湾に行きます。台湾には午前中の 11 時には着きまして、台湾経由で香港やバンコク、シンガポール、もろもろ持って行くことはできるんですけれども、おおむね東南アジアの国々、主要都市でしたら夕方までには到着することができます。

どのように食べられているかというと、これは台北の、ごめんなさい、ホテルの名前を

忘れてしまいました。高級ホテルの中にオイスターバーがあるんですけれども、周りに並んでいるのはフランスのブロンだとか、名だたる世界で有名な牡蠣の中に、まだちょっと新入りなのでラベルは手書きなんですけれども、日本広島 250 台湾ドルという形で、新入りで並んでいます。

これはスーパーです。これもやっぱり台湾のスーパーなんですけれども、日本広島新鮮 直送と書いてありますね。128 ドル、こういう感じで売られています。

これは、香港です。今、広島県で香港の物産展などをしょっちゅうやっていただいていて、それに参加させてもらったときの写真だと思うのですけれども、ジャパン広島オイスターと書いてありますね。香港ドルで45ドルです。こういった形でアジアに並んでいます。

もっともっとこの大崎上島でこういう牡蠣をつくっているんですよというのを広めるために、これは台湾のフレッシュワンという、オーガニックなスーパーなんですけれども、そこの会員様をこのように集めて、ワインとうちの牡蠣のコラボレーションをして、プレゼンテーションですね。こうやってうちで種からつくっていますという説明をしたりもしています。

また,この牡蠣養殖に関しては,こういう西洋風の養殖方法なので,これはカナダとオーストラリアの方が来られて,いろいろ技術指導を受けたりもしています。

これはうちの岡さんです。岡さんは水産博士なので、カナダ人の方に具体的な養殖方法、 養殖方法といっても、海外の場合は、一つ一つ理論的に全部説明してもらえるので、指導 を受けているところです。

これもうちの養殖池です。これはちょうど大串の海岸のところです。ここで、僕らは漁業権をもらっているので、今度牡蠣を養殖したいという話をして、是非見てみたいということで、二人を連れて行ったら、言われた言葉が「エクセレント」です。

彼らは、先ほどのようなカナダだとかオーストラリアのすばらしい環境のところで養殖をしているんですけれども、彼らでさえも、この大串の海を見て「エクセレント」"すばらしい"と。自分でここで養殖したいぐらいだという話をされていて、それぐらいこの島の周りというのは牡蠣養殖には最適な場所です。

これはフランスに行ったときです。やっぱり塩田で養殖している人に養殖方法を教わったときです。

あとは、湯崎知事が載っていますけれども、これは福屋さんの年末のカタログです。福屋さんのカタログで、うちの牡蠣と、あとこの大崎上島のレモンをセットにした贈答品、こういったものもつくって、年末に福屋さんで販売してもらっています。

また、オイスターハウス、養殖場に見てきていただける方が結構たくさんいらっしゃるので、そこで牡蠣を食べてもらおうということで、こういう牡蠣小屋風に、焼いても食べられるし、生でも食べられるというのを特徴に、これは牡蠣だけではなくて、その場で生きている車エビだとかアサリだとか、うちの養殖場でとれたものは何でも食べられますよ

というコンセプトで、お客さんに来ていただいています。

これがうちのファーマーズプレート言っているんですけれども、大きい牡蠣と小さい牡蠣、それと生きた車エビ、あと大崎上島のレモン、全部メイドイン大崎上島の商品、これで3,000円ですと言って、お客さんはこれを生で食べたり、焼いて食べたり、好みで食べていただいています。

アサリは、もともと私たちが養殖場に来る前からたくさん池にはいたので、このアサリもこれから増やしていこうということで、まだ今年からなんですけれども、水産庁の支援を受けて、種苗生産、こういうちっちゃい種のアサリをどんどんつくって、将来的には広島県のアサリの産地である大野とか尾道方面の漁協に種として配付して、広島でとれるアサリは種から広島でつくっていますということをうたい文句にして、資源を増やしていこうという取り組みもしております。

これは、ちょうど車エビが終わって、水を抜いて潮干狩りをしている風景です。最近海ではなかなかアサリがとれないので、たくさんのお客さんにこのように来ていただいています。

これは、そのアサリの種をとっているところです。アサリから産卵をさせて、その種をとっているところです。

車エビに関しては、これぐらいの、これぐらいと言っても分からないですね。これはビーカーなんですけれども、0.02 グラムぐらいのポストラーバという幼生ですね。これも毎年6月ごろに養殖池に放して、徐々に、今はちょうどこれぐらい、1 グラム半から2 グラムぐらいのエビ、それを10 月ぐらいから、これぐらいのサイズになって水揚げをして、それこそ島の方々に買っていただいています。

車エビ養殖は砂が一番大事なので、1年に1回水を抜いて、このように砂を徹底的に乾燥させて、毎日、毎日、ひたすら耕耘機をかけて、砂の状態を非常にいい状態に持っていかないといけないので、そういう作業を毎年5月、6月ごろしています。

車エビも同じようにこういう形で、贈答品で販売しています。最後は宣伝になってしまいましたけれども、こういう形で販売させていただいております。

もっともっと大崎上島の海の幸が、国内をもとより、海外にも広まっていって、海外で 大崎上島の牡蠣を食べて、大崎上島、広島はどんなところかな、行ってみたいなというよ うなお客さんがどんどんこれから増えてきてくれたら、一番うれしいなと思っています。 以上です。どうもありがとうございました。(拍手)

#### ●知 事

ありがとうございました。鈴木さんは東京のご出身で、埼玉、浦和でお育ちになった。 僕らは浦和と聞くと、浦和レッズかと思ってしまうのですけれども、そもそも水産大学に 行きたいというのは、どうしてだったのですか。

#### 〇事例発表者 (鈴木)

埼玉の浦和で、海がなかったんですね。海への一つあこがれがあるのと、もう一つは、小学校1年生、2年生ぐらいから、近くの川でフナを釣ったり、コイを釣ったりして、それを家で飼ったりするのが大好きで、そういうことをずっとしていて、今でいったら「オタク」みたいな感じですけれどもね。そんな学生だったので。

#### ●知 事

なるほど。こっちにいくと「さかなクン」になったかもしれない。

#### 〇事例発表者(鈴木)

そうですね。一歩間違ったら「さかなクン」です。

#### ●知 事

それにしても、すごい勢いですよね。世界中の市場とか養殖場に、お休みになったら出かけて行くのですか。

#### 〇事例発表者 (鈴木)

そうですね。はい。

#### ●知 事

それは、なんとなく仕事でも行っていいんじゃないかという感じもしますけれども、自 分で行かれたんですか。

#### 〇事例発表者 (鈴木)

そうですね。当時は冷凍のエビを販売する仕事だったので、全くそれとは関係ない牡蠣 養殖だとか、特にアメリカとかヨーロッパは出張で行く機会はまずなかったので、プライ ベートで行っていましたね。

#### ●知 事

なるほどね。でも、そういう意味ではかなり行動派ですよね。

#### 〇事例発表者(鈴木)

好きですからね。

#### ●知 事

でも、大崎上島に来て、塩田跡地を買いましたと。すごくないですか。もともと菱重興産が持っていて。

#### 〇事例発表者 (鈴木)

はい。

### ●知 事

ただ、塩田跡地は江戸時代からある、伝統ある塩田ですよね。これを思いきって借金で。

#### 〇事例発表者 (鈴木)

そうです。まだ家は買っていないんですけれども。

#### ●知 事

奥さんに怒られたとか。

#### 〇事例発表者(鈴木)

そう。そこにいますけど。はい。大変怒られました。家のローンを組む前に、何でこっちの養殖池を買って、そのローンを組むんだと。

#### ●知 事

すみません。奥さん、ネタにしちゃって。いや、僕、この話はさっきファームスズキでも聞いていたものですから、皆さんにご紹介したくて言っちゃったんですけれども、でも、好きとは言え、まだお若いですし、すごく貯蓄があったということでもなかったのではないかと思うのですけれども、思いきって、幾らとは言いませんけれども、家より高いぐらいのお金を払って、というか、お金を借りて始められたわけですよね。

#### 〇事例発表者 (鈴木)

そうですね。はい。

#### ●知 事

すごい熱意ですよね。こうやって実際にここに来られてよかったなというふうに思われますか。

#### 〇事例発表者 (鈴木)

すごく思いますね。まずは、本当に近所の方々、当然あれだけ広い敷地の中で、近所の 人たちにとても支えてもらっている部分があって、いろいろな野菜だとか、きょう夕飯に これをつくったのよ、多くつくったからと差し入れしてもらったり、いつも散歩している 人たちが「エビは順調に育っているか」なんて声もかけてもらえるし、本当に地域と一緒 に仕事ができていて、それが一番うれしいですね。

#### ●知 事

なるほどね。広島県はずっと実は牡蠣の輸出というのも取り組んでいて、私が鈴木さんに初めて会ったときには、まさに冷凍の牡蠣を輸出していて、生の牡蠣を輸出するというところが非常に少なくて、乾燥牡蠣か冷凍牡蠣かというのがほとんどで、ごく一部しか生は輸出していなかったんです。それを実際鈴木さんはこの3年で進められたと。

#### 〇事例発表者 (鈴木)

はい。

#### ●知 事

本当に売っていますよね。店頭の証拠写真まで見せていただいて。

#### 〇事例発表者 (鈴木)

はい。

#### ●知 事

正直いって、輸出は難しいんですよ、できないんですよという声ばっかり聞いていたの

に、鈴木さん一人で実際に売っちゃって、すごいですよね

#### 〇事例発表者(鈴木)

いやいや、そんなことはないです。やっぱりアメリカだとか、ヨーロッパの牡蠣屋さんは同じことをやっている。僕らよりずっと前から、何十年も前からやっているので、まだまだその人たちに負けたくないので。

#### ●知 事

グリーンオイスターというのも、先般NHKでも取り上げて放送がありましたけれども、フランスで幻の緑の牡蠣と。すごい高級な牡蠣なんですよ。それが大崎上島でできるんですよ。すごいですよね。まだ、値段がもうちょっと高くなったらなというのがあるみたいですけれどもね。

#### 〇事例発表者 (鈴木)

そうですね。

#### ●知 事

こうやって埼玉から来られて、大崎上島にすごく貢献していただいて、しかもラブ大崎 上島で、すばらしいなというふうに思いますけれども、今、 I ターン組、の方々も結構い らっしゃるんですね。

#### 〇事例発表者 (鈴木)

はい。そうですね。

#### ●知 事

50人ぐらいいらっしゃるんでしたっけ。

#### 〇事例発表者(鈴木)

そうですね。

#### ●知 事

明日, 会合があるそうですね。

#### 〇事例発表者(鈴木)

あ, そうですか。

#### ●知 事

というようなお話なのですけれども、島を出て行かれる方もいるかもしれませんけれど も、島にこうやって来られて活躍される方もたくさんいらっしゃるということで、またこ れからもご活躍をお祈りしております。

#### 〇事例発表者 (鈴木)

頑張ります。本当に島の人たちのおかげでできている部分が非常に大きいので、こちらこそ、今後ともよろしくお願いします。まだ若いメンバーばかりなので、よろしくお願いします。

#### ●知 事

ありがとうございます。これから鈴木さんの牡蠣がアジアじゅうのお店に広まるようにお祈りして、もう一度大きな拍手を鈴木さんにお願いいたします。ありがとうございました。

#### 〇事例発表者 (鈴木)

どうもありがとうございました。(拍手)

## 事例発表②

#### ●知 事

次のバッターは、今度は地元生まれの、地元育ちということで、円光歩さんにお願いしたいと思います。円光さんは、「みんなで島のおみやげをつくりたいんよ実行委員会」代表でいらっしゃいます。

円光さんは、大学卒業後に地元大崎上島に戻って、住んで働きたいという思いを持って、 昨年、大崎上島町社会福祉協議会に就職をされました。観光に来られた方にいつでも大崎 上島を思い出していただけるような「島を語れるおみやげ」づくりに取り組むなど、大崎 上島の魅力発信に貢献をされています。

今日の発表のテーマは、「島のぶちええところを伝えたいんよ!」です。それでは、円光 さん、よろしくお願いします。

#### 〇事例発表者(円光)

ありがとうございます。紹介していただきました「みんなと島のおみやげをつくりたいんよ実行委員会」といっても、委員がまず3名ぐらいしかいないのですけれども、やりたい人たちでやっています。島のぶちええところを伝えたいんよ!ということで、そういう新しい島のおみやげをつくってみようということで、昨年3月ぐらいからやらせてもらっています。

いきなりですが、島が好きな人、手を挙げていただけたらと思います。よかった。これ は非常に話しやすい。これが挙がらんかったら今日どうしようかなと思いながら、地域の 宝を見に来てくださっている方なので、とても心強いと思っています。

その中で、もういっちょ、島の好きなところ、ええところを一つ、言えるよという人、また手を挙げてもらえたらと思うのですけれども、一つぐらいなら私、言ってあげられるよと。ちょっと、好きなのに、みんな言えないんですか。そういう、ちょっと皆さん引っ込み思案ではないですけれども、恥ずかしがっている方が多いのですが、発表してくださいとか言いませんので。五つとは言いませんが、一個で手が挙がらなかったので、十個、百個まではいかないですが、ちょっと島の好きなところとか、自分が思っている「いいな」というところを、少し言いやすくするためのおみやげをつくりたいなということで、今回

はこの取り組みをやっています。

だから、みんなの島の好きなところ、ええところを話しやすくするようにしたいなということで、自己紹介は簡単ですが、地元大崎海星高校まで島の中で暮らしていました。卒業した後は鳥取の大学に行って、一応教育の勉強をして、先生になって島に帰ってきますという気持ちで大学に行ったのですが、勉強していれば、県の教員になれても島に帰れることがないと。なかなか帰れない。だったら、先に島に帰りたいと思って、昨年、島で募集していた社会福祉協議会のほうに就職させていただき、ありがたく、卒業と同時に大好きな島で働くことができました。

なので、免許は、小・中・高と養護学校とかの免許も取って、どこの学校でも働ける準備はしたのですが、違う仕事で今は島を楽しんでいます。

ということで、今日はこのおみやげづくりと、欲張って話したいということで、みんなで一緒に「島キャリ」というのもちょっとだけ後で話させてもらえたらと思っています。

そもそもこの企画は何で始まったかというと、もちろん自分が島に帰ってきて楽しいことをしたい。大崎をいろいろな人と楽しんでいきたい。ということと、大崎上島のいいところをもっともっと発信していきたい。先ほど鈴木さんが言われたように、すごくいい環境もあるので、そういうことを伝えていきたい。島の人たちと、あったらいいな、うちの島にもこんなものがあったら楽しめるのにという、よそを見ていいなと思ったことを、あきらめるのではなくて、やればいいと思うんです。やってみたらいいと思うので、あったらいいなをやっていこうぐらいの気持ちで始めました。

その中で、具体的に言うと、島の話をすれば、皆さん「好きだ」と手を挙げてくださる のですけれども、どこを好きかとか、もっと話してみたいなと。そういう話をする場と友 だちをつくる。話す友だちをもっと増やしたいというのと、島を語りたくなるようなおみ やげがあったらいいんじゃないか。暮らしの中でも使えるおみやげをつくろうということ で今回はやっています。

例えばなのですけれども、島外から友だちが遊びに来たときに、島のおみやげで何をお 勧めしますか。すみませんが、観客の中の谷本さん、何をお勧めしますか。協力していた だいて一言。

#### 〇谷本

今だったらジャムですかね。

#### 〇事例発表者 (円光)

ありがとうございます。お隣のムラヤマさん、すみません、一言。仕事の関係で仲良くさせてもらっているので、嫌がらせではないです。今日の午前中も一緒にやらせていただきました。

#### Oムラヤマ

いろいろなものをたくさんつくっていらっしゃるので、今ぱっと思いついたのは、これ

からだとブルーベリー。

#### 〇事例発表者 (円光)

ありがとうございます。ジャムにブルーベリー。そうなんです。「うん」「うん」と思った方がいっぱいおられると思うのですけれども、島のおみやげギャラリー、ちょっと急いでとってきたのですけれども、ブルーベリーとか柑橘系のジャムとか、もちろん、ここに来る途中にある岡本醤油屋さんのごまや醤油、ふりかけとか、最近ではレモンとか、にしき堂さんが使ったおみやげが出ているんですけれども、ファームスズキさん、すみません、今日は写真が用意できてなくて、気が利かずで申し訳ないんですけれども、そういうものが多いというのが島の状況だと思って、そうではないもの、食べ物じゃないおみやげがもっとあったらいいのではないかというので、ぬぐって磨こう大崎上島手ぬぐいということで、手ぬぐいをつくることにしました。

3月末から、勝手に僕がつくるのではなくて、島の人に意見を聞きながら、どういったところがええよ、好きよ、私はここが自慢よというのを、いろいろなことを聞きながらつくるというのをやっています。これは第1回目の「ええとこだし」ということでやったんですけれども、皆さん、付箋が山のように張ってあって、自分が好きなところ、ちょっと気に入っているところを書き出して、とにかく出す。このおみやげをつくる趣旨を説明したり、自分たちの島、どこが好き、どこがいいというのは、もっともっと言ったらいいと思うんですね。皆さん、小さなテーブルで「どこが好きですか」と聞いたら、多分山ほど出てくるような方が今日来てくれていると思うんですけれども、それをやったというのが第1回目。たくさん島の好きなものを出す。

第2回目は、「オキウラマルシェ」というイベントが島の中で半年に1回されているのですけれども、そこに出店させてもらって、手ぬぐいに載せる、手ぬぐいの柄のアンケートをとらせてもらいました。どんなのがいいですかと。大まかによその地域でつくっている手ぬぐいから3パターンを選んで、デザインのアンケート協力を、皆さんにシールで世論調査みたいな感じで、90名以上協力してもらいました。また、島のみんなが自慢したいものをカテゴリー分けということで、食であったり、建物とか、景色とか、そういうのに分けながらやるという作業をしています。

これが5月ぐらいになっているんですけれども、手ぬぐいの柄を実際にどうするか。右下のほうにあるのですけれども、何パターンか、本当に自分たちが好きなもの、これはよその人とか島の中の人でも、これ、いいよね。見に行くよね。大串の海岸、いいよね。神峰の景色は好きよね。そういったものを手ぬぐいに落とし込んでみました。それで手ぬぐいのパターンを絞っていくという作業や、この手ぬぐいのワークショップを、今、前列で聞いている森さんのアンテナショップで毎回やらせてもらっています。もちろん島内の人が好きというのも大事なんですけれども、おみやげというのもあるので、島外から来てくれている人の目もお借りして、おみやげをつくっています。島外からアンテナに来たお客

さんを偶然にも巻き込んで、どんどん意見をもらいながらやっています。

4回目は、具体的に絵を絞っていったり、色とかも、島らしい色って何じゃろう、私らが好きな色は何でしょうという話をしながら、アンテナでみんなでやっていったんですけれども、例えば映っている左上の写真の方からは、ちょっと字が小さい、絵が小さい、これは見にくい。そういうのがあるけ、もっと大きくはっきりどーんと分かるほうがいいんよというような意見をもらいつつ、どうしようかなと、みんなでどっちがいいかとか、どれを大きくしますかという話をしながらおみやげをつくっています。

第5回目は最終案の決定なのですが、今日も来ていただいている町長さんにも、偶然来ていただいたのでご意見をくださいということで、色とか、デザイン、どれがお好きですかと。町長さんもびっくりの表情の写真がちょうどあったので入れているのですけれども、完成品はこんな感じになりそうですというのが、まだ今日はできていないんです。7月の半ばに現品ができるようになっていまして、今はデザインを決めて、業者さんに発注しているところです。

第5回,これは5月末に会議をやって,みんなで最終的にはこの色でいこう,このデザインでいきましょうという話をしたところです。4回目,5回目,協力メンバーという感じで,毎回同じメンバーではなくて,来れる人,偶然お店に来た人とかを巻き込みながらやっています。

わいわいしながら、楽しかったねということや、島外から来られた方は、3時ぐらいにこのグループワークが終わるので、終わった後に島内を案内しますよと。ここに行きたい、あそこに行きたいと言っていたので、参加してくれたお礼にはそれぐらいしますのでと、島の観光案内をしたりして、交流もうまいこといっているところではあると思います。

今,参加している今日の皆さんだけにはお見せしますが,これが一応最終原案になっています。これから夏の時期はいいですね。櫂伝馬が7月にあるし,8月もあるというので,祭りだったり,先ほどジャムとかブルーベリーと言っていただいたものも絵の中に落とし込んでみたり,花火だったり,フェリーとか,やっぱり島に来るにはフェリーがないと,ということでそういったものを載せてみたり,魚も載せたい。とてもおいしい自然の恵みなので,メバルを,代表的かなということで載せたり,というのをみんなで話し合ってきて,これを載せましょうという話で,今,つくっている手ぬぐいのデザインです。青と黄色です。パッケージは,これは「おおさきかみじまん手ぬぐい」ということで,大崎上島を自慢する手ぬぐいです。私たちが島外の人に,もちろん島内の友だちに,家族に,いろいろな人に,自分の好きなところを自慢してもらえたらいいなという手ぬぐいになっています。

これは、簡単にパンフレットみたいなものも付けるんですけれども、「まだまだあるよ。 おおさきかみじまん」。グループワークのときに、絵に落とし込むところまではいかなかっ た、本当はもっと自慢したい、伝えたいということも添えて、島のことを知ってもらえる ような中身を少しでも詰め込んで、皆さんにお伝えできればと思います。

これは、先ほどの絵の解説ですね。島の人は絵を見ただけで何かというのはよく分かると思うのですけれども、島外の人にも分かりやすいように、もちろんおみやげなので、ミカンはこうですとか、木造5階建てというのがどういうものか、櫂伝馬の伝統文化ということを説明するようなものをつくったりしています。

欲張ってちょっと話したいと言った、一番最初に教育の免許も取りましたと言いましたが、そういうのにかかわりたいなという気持ちもあって、みんなで一緒に「島キャリ」というのを別でやっています。

島のぶちええところを、おみやげを使っても伝えたいし、島の子供たちにも伝えていきたいという思いがあって、「高志塾」の取釜さんと、授業で一緒にお手伝いさせてもらいながら、中学3年生向けに島らしい体験とか、自分の島のことをよく知って卒業していってもらいたい。高校、大学、専門学校、就職と出て行く人は多いけれども、自分の島のことを語ってもらえる材料を、経験してもらいたいなという思いがあって、手伝わせてもらっています。

これは第2回「シーカヤックで無人島に行こう」。やっぱり島の遊び、島らしい遊びも経験していただきたい。島のためにも、もちろん島の子供たちのためにも、島の皆さんの力を是非とも貸していただきたい。というのが、地域の人と教室の外で地域のことを教えてもらうというので、島でとれる海藻はどういうのが食べられるかとか、そういったことを教えてもらったり、田植えとかでも、もちろん田んぼで手植えをするという経験もなんですけれども、それをやってくださっている地域の方に、昔は都会でこんな仕事をしていた。でも、今は農業がやりたい。何でそういうことになったかという生き方のことを話してもらったり、いろいろな経験、いろいろなことを語ってもらって、地域の方に、島のことを子供たちに知ってもらいたいということもちょっとやっています。皆さん、是非とも今後力を貸していただきたいということがあるかもしれませんが、そのときは、島が好きな皆さんだと思うので、協力していただきたいと思っています。

次回のお知らせで、手ぬぐいのお披露目会。まだ、現物ができていないと言いましたが、7月26日にアンテナのほうで完成披露宴、披露宴であっているのかとなったのですが、できましたというお披露目会をしたいと思っています。なので、皆さん、そういったところに来ていただければ、島外の子供さんへ、島外から来た友だちへ、渡せるようなおみやげをつくったので、見ていただきたいなと思っています。夜の部も用意していまして、木江十七夜祭、当然祭りに人がいっぱい帰ってきているので、島外の友だち、若い人たちとか、そういった人たちに島でこういう活動があるとか、こういうことができているということを知ってもらえるように、祭りでも販売したいと思っています。これは今のところ、いいよという返事をいただいているので、夕方からおみやげを売りにいきたいと思っているところです。皆さん、26日、お昼だったらアンテナで、夜だったら十七夜祭のほうに来てい

ただけたら、そこで島の新しいおみやげに出会えると思います。

ということで、私の発表は終わりたいと思います。ありがとうございました。(拍手)

#### ●知 事

円光さん、どうもありがとうございました。お昼のときからトークがうまいなと思ったら、先生だったという、皆さんにもあてちゃったりして、まさに授業という感じでしたけれども、先に島に帰りたいということで、先生よりも帰ることを選んだんですね。

#### 〇事例発表者 (円光)

はい。

#### ●知 事

大学に出るときから島に帰りたいと。

#### 〇事例発表者 (円光)

そうですね。はい。島に帰れる仕事だと思って、先生への勉強をしようと思って行った んですけれども、どうやらすぐに帰れないと思ったので、これは違うと。

#### ●知 事

そうですね。教育委員会の人事異動は広域ですからね。

#### 〇事例発表者(円光)

専属募集があれば是非、とか思いながら、嘘ですけれども。

#### ●知 事

でも、十分先生をやっておられるような感じがしますよ。

ちなみに、この「みんなで島のおみやげをつくりたいんよ実行委員会」、これは誰かに頼まれたんですか。

#### 〇事例発表者 (円光)

いいえ。一昨年、町の「カッコいい過ごし方」図鑑をつくろうという、定住促進でパンフレットをつくったときに、一緒にグループのメンバーだった島外の方と話して仲良くなって、島のおみやげってもっといろいろあってもいいねという話で盛り上がったので、いつかまた、その図鑑づくり以外で何かやりましょうと言っていて、それこそ県の「しまのわ」の事業が始まるときに、このタイミングでやりましょうというふうになって、全部自分たちでやりましょうという話でやり始めました。

#### ●知 事

なるほど。では、何か行政の事業があったとか、社協の事業だとか、そういうのではなくて、完全に自分たちの中でやられたということですね。

#### 〇事例発表者 (円光)

はい。あったらいいなと思うものをやっていくということで、やってみているところで す。

#### ●知 事

なるほどね。島のおみやげがあったらいいなと思うことは結構あると思うんですけれど も、それを自分でつくっちゃうというのはなかなかないですよね。

#### 〇事例発表者(円光)

そうですね。一緒に実行委員会でメンバーをやってくれている方が、福山とかでそういった活動もされていて、僕はうまく人を集めたり、広報したりというのをやれば、一緒にできるんだというのが分かったので。

#### ●知 事

これ、いいなと思うだけじゃなくて、やってみようとさらに思うだけじゃなくて、やっちゃったというところですね。このやっちゃった、やったということが、僕はすごく大きな違いではないかと思うんですけれども、都合何人ぐらい、このおみやげづくりには参加されたんでしょう。

#### 〇事例発表者 (円光)

毎回8人から10人ぐらいで、5回、今のところやっているので、同じ人もいますが、延べで50人ぐらいと、オキウラマルシェのときはアンケートだけという人も入れたら、90~100人ぐらい来ていただいているので、そんなところです。

#### ●知 事

なるほど。偶然お店にいた方も含めて、ですけれども、そうやっていろいろな人の力を借りて、いろいろな人を、さっき巻き込んでというふうにおっしゃっていましたけれども、 それでみんなの思いが詰まったすばらしいおみやげができたのではないかと思います。

あと「島キャリ」ですよね、中学生の。島キャリも、これは誰かが、円光さん、先生の 免許も取っているんだからやってくれよと言われたんですか。

#### 〇事例発表者 (円光)

いやいや、これは島で塾をやられている方がおられて、そういうことを取り組みたいというお話をちょっと聞いたので、僕もそういうのがあったらいいと思いますと。お手伝いします、みたいな形で、手伝っています。僕が主導しているわけではないです。

#### ●知 事

そうなんですか。でも、仕事として、というよりは、自分のやりたいということでやっておられるということですね。

#### 〇事例発表者 (円光)

はい。子供たちに島のいいところは伝えたいと思うんです。知ってもらったほうが絶対 にいいと思うので、知らずに出るのとでは訳が違うと思うので。

#### ●知 事

なるほど。島を好きだという人はもちろんたくさんいらっしゃると思うんですけれども、 こうやっておみやげをつくったりとか、子供たちに島のいいところを、本当の実体験とし て伝えていくということを実際に進められる。そういう行動が大きな違いを生んでいくの ではないかという感じがいたします。

子供たちを教えるという意味での先生では今はないかもしれませんけれども、巻き込んだ人たちにとっては、すごくいい先生になっていらっしゃるのではないかというふうにも思います。

先ほどの鈴木さんは東京の方でしたけれども、円光さんは地元の方で、島出身とか、東京出身とかは関係ないのではないかという気がしますね。本当に島が好きで、自分の生まれ育ったところじゃなくても、この場所が好きであるということがいろいろなものの原動力になって、前に進むエネルギーになっている気がします。

円光さん,これからも、まだまだお若いので、長く島にいていただいて、その影響力を 発揮して、大崎の人も、外から来る人も、島大好きな人をいっぱいつくっていただけるの ではないかと思います。改めて円光さんに大きな拍手をお願いいたします。

#### 〇事例発表者(円光)

ありがとうございました。(拍手)

## 事例発表③

#### ●知 事

ありがとうございました。毎回、僕、こうやって時間を超過していくんですけれども、 今、10分ぐらい遅れて進んでいますので、すみません。

続いて発表いただきますのは、大崎上島中学校3年生、生徒会長をされている正出七瀬 さんです。

正出さんをご紹介いたしますと、正出さんは、文化祭や修学旅行で行った大崎上島町の特産品を販売する取り組みの「商人体験」をきっかけに、島の自然のすばらしさや歴史・文化を再発見されました。

生徒会長となって、生徒会活動を通じて、大崎上島町のさらなる魅力発信に取り組んでいます。発表のテーマは、「おしい!大崎上島」です。それでは、正出さん、よろしくお願いします。

#### 〇事例発表者 (正出)

皆さん、こんにちは。(「こんにちは」の声あり) 大崎上島中学校3年生の正出七瀬です。 2年前はそちらの席で先輩が発表しているのを見ていたので、今回、こうして前で発表するチャンスをいただけるというのを聞いて、何日も前から楽しみにしていました。

さて、今日は大崎上島中学校で取り組んでいることと、私自身が挑戦していることを通 して、大崎上島について考えていることを発表したいと思います。

大崎上島中学校は、全校生徒135人の島内唯一の中学校です。大崎、東野、木江の3つの中学校が統合され、今年で6年目になります。3つの中学校が統合されたことにより、

今まであまり知ることのできなかったほかの地域の自然などのよさを知ることができるようになりました。

また、島内の小中学校で、「大崎上島学」の学習を行っています。この大崎上島学の学習の一環として、大崎上島中学校では、東京方面への修学旅行の際に、大崎上島町の友好都市である武蔵野市で、私たちが仕入れた大崎上島の特産品を販売する商人体験学習を行っています。これは、事前の学習の様子です。ポスターやチラシ、特産品を使ったレシピの紹介、そして、大崎上島の紹介などを行いながら販売するのですが、東京の皆さんに理解してもらうには知らないことが多く、私たちの知識が表面的だったことに気づきました。

また、内弁慶な私たちは、大都会では最初はなかなか大きな声で「いらっしゃいませ」や「レモンはいかがですか」「大崎上島はこんなところです」などと言うことができませんでした。

また,昨年からは生徒会で新入生歓迎ウオーキングを実施しています。このウオーキングで島内を巡りながら,新入生との交流を深め,大崎上島のよさを発見しています。

昨年のウオーキングは、中学校を出発し、木江から沖浦、明石、大串を回って、中学校へ戻る約25kmを歩ききりました。木江では、映画「東京家族」のロケ地を見学しながら、木江にまつわるクイズに1,2,3年生混合のグループで挑戦しながら歩きました。

ここで問題です。木江地域にある伝説を2つ答えてください。

正解は、地獄谷の鬼伝説と婆ノ岩の蛸伝説です。お分かりでしたか。

今年のウオーキングは、町の条例で神峰の日が制定されたこともあり、神峰登山を行いました。今年も生徒会で神峰にまつわるクイズをつくり、みんなでクイズに挑戦しながら登ってもらいました。

ここでもう一問問題です。神峰には変わったお地蔵様がいます。次のうち、どれでしょ うか。

正解は、イの「首なし地蔵」です。いかがでしたか。

このような問題を解きながら、みんなでウオーキングをしていきました。昨年も今年も 好天に恵まれ、本当に美しい大崎上島の自然を満喫しながら、そして、島の歴史や文化に ついて、これまで知らなかったことを楽しみながら学ぶことができました。

また、私は去年から中国新聞のジュニアライターとして平和をテーマに、被爆者の方々やイランの方たちを同じ世代の仲間とともに取材しています。ところが、広島県の中高生たちでさえ、私が広島まで3時間近くかけて通うことも、大崎上島がどこにあるのかさえも、ほとんど知りませんでした。

「おしい!広島県」のキャンペーンは、全国的にも注目され話題となりました。私たち 大崎上島中学校の生徒たちは、もっともっとふるさと大崎上島のすばらしさについて、自 分たちの目で見て、地域の方たちから話を聞きながら、大崎上島に自信と誇りを持って、 同世代の仲間たちや、島外の人たちに魅力を発信する取り組みを続けていきたいと思って います。

「おしい!大崎上島」ではなく、「おいしい大崎上島」になるよう、私たちにできること を頑張っていきます。ご清聴ありがとうございました。(拍手)

#### ●知 事

正出さん,ありがとうございました。ちなみに,「おしい!広島県」キャンペーンは,広島県はおいしくなったので,7月14日をもって終了いたします。

さっきの写真を見ると、2年前と全く同じで、進歩がないなと。中学生はどんどん成長するのに、我々は成長がないんじゃないかとちょっと思ってしまいましたけれども、吉祥寺の商人体験、どうでしたか。すごく人がいっぱいいたでしょう。

#### 〇事例発表者 (正出)

はい。人も多かったですし、チラシとかを配ったんですけれども、島の人だったら笑顔で受け取ってくれるのに、向こうだったら、思いっきり無視されて、本当に心が折れそうでした。

#### ●知 事

そうね。都会というのは、できるだけ人とかかわらないようにするというのを一生懸命 やっていますからね。努力して人にかかわらないようにするという、そんなこともあるん ですけれども、島はやっぱり全然違いますよね。にこやかでね。

そのときに島のことはあまり知らなかったと思ったのは、どんなことだったのですか。

#### 〇事例発表者(正出)

向こうに行ったら、武蔵野市の人でも、大崎上島にゆかりがあるんですよと言ってくださる人もいたんですけれども、大崎上島ってこんなところだよねと聞かれて、自分たちが知らないことを聞かれたりして、実際答えられなかったので、何年も住んでいるのに恥ずかしいなと思いました。

#### ●知 事

それが今や鼻たれ地蔵か、首なし地蔵か、金食い地蔵かという、誰も知らないような感じでしたけれども、そういう意味ではすっかり島のことには博士になった感じですか。

#### 〇事例発表者(正出)

いや、まだまだ知らないことだらけです。

#### ●知 事

そうですか。でも、こうやって楽しみながら勉強してもらって、これから正出さんがどういう活躍をしてくれるか分かりませんけれども、島で活躍するかもしれないし、広島県で活躍してくれるかもしれないし、あるいは、広島を飛び出して、世界、日本で活躍してくれるかもしれませんけれども、やっぱり自分の生まれ育ったところをしっかりと、アイデンティティーとよく言いますけれども、それを持っているというのは大切なことで、今、島の中学校ではそれをしっかりと教育されているというのが、今日の発表を見てもよく分

かります。本当に正出さん、これからも、ちょうど中3で進路を考える時期だと思いますけれども、頑張って夢に向かって進んでいただけたらと思います。

今日、始まるまではすごい緊張していますと言っていたんですけれども、しっかりと発表していただいた正出さんに大きな拍手をお願いいたします。ありがとうございました。

#### 〇事例発表者 (正出)

ありがとうございました。(拍手)

## 事例発表④

#### ●知 事

続いて、最後の発表です。最後の発表は、大崎海星高校3年生鼻戸莉菜さんにお願いします。

鼻戸さんのご紹介ですが、鼻戸さんは、高校を卒業後に保育士と幼稚園教諭の資格を取得して、地元大崎上島のため、子育て支援に携わる仕事につく夢に向かって、日々、勉学や部活動に励んでいらっしゃるということです。

今日の発表のテーマは、「大崎上島で働きたい!」です。それでは、鼻戸さん、よろしく お願いします。

#### 〇事例発表者 (鼻戸)

広島県立大崎海星高等学校3年生の鼻戸莉菜です。今日はよろしくお願いします。(拍手)

私の将来の夢は、大崎上島で幼稚園教諭か保育士として働くことです。なぜ私がその仕事を目指したかというと、中学校の職場体験学習に向けて、どこで体験するかを考えたときです。私は、将来何をしているんだろう、どこで働いているんだろうと、考えました。その答えは、何も決まっていませんでした。そこで、自分の好きなことや、やってみたいことについて考えると、小さい子供とかかわるのが好きということに気づきました。そこで、島にある大崎幼稚園に行くことにしました。

また、高校のインターンシップでは、同じく島内にある保育所「ひかり園」で実習を行いました。

私が小学生のころ、低学年の子と遊ぶことが多く、小さい子とかかわるのが好きになりました。そして、通っていた島の幼稚園と保育所で実習を行いました。インターンシップでは、子供たちが自然にふれあいながら、のびのびと楽しそうにみんなが仲良く遊んでいる姿を見ることができました。

例えば、インターンシップ中に私も同行した遠足では、海へ行って貝殻拾いをしました。 拾った貝殻を園に持ち帰って、ネックレスにしている子もいました。また、園の外周をお 散歩していたときには、近所の方がミカンを分けてくださり、みんなでおいしく食べまし た。今,振り返ってみると,地域の人が園児たちを温かく見守ってくださっていることが 分かりました。このような体験は島ならではのことだと思います。

私が島の自然のよさをさらに実感できたのは、高校2年生の2月に、北海道でのスキー体験型修学旅行です。大雪で高速道路はもちろん、一般道も大渋滞になり、予定どおりの行動ができなくて、自然の厳しさを思い知らされました。しかし、晴天の中で滑ったスキー実習は最高で、人間がいかに自然とともに生活しているかが分かりました。

そして、島に帰ってみると、島の気候がいかに恵まれているかがよく分かりました。1 年を通して温暖で、雨や雪も少なく、食べものでは山の幸や海の幸が豊富であることなどです。

今,私が通っている高校では、ほとんどの先生方が島外から通ってきています。小学校、中学校のときも、地元の先生方は少数でした。しかし、幼稚園や保育園では、ほとんど地元の先生方ばかりです。島外から来ている先生、地元の先生、それぞれメリット、デメリットがあると思いますが、私はこの島に帰ってきて、自分の育った園で子どもを育てたいと思っています。

メリットとしては、生まれたときから学校を卒業するまでの間、何でも相談できる濃密な人間関係が形成できることです。このことは、この大崎上島ならではの特徴だと思います。一方、デメリットとしては、島の人口が減り、様々なお祭りをしたり、例えば文化祭や体育祭など、学校行事をするときの人手が不足しており、なかなか元気が出ないことです。しかし、島の自然を通して子供たちを成長させることができるのは、地元ならではの力だと思います。そのために、高校卒業後、大学へ進学して資格を取ることが今の私の目標です。そして、島に帰って、幼稚園教諭または保育士として働けたらと思っています。以上が私の将来の夢です。ご清聴ありがとうございました。(拍手)

#### ●知 事

鼻戸さん,ありがとうございました。いよいよ高校3年生ということで、そういう意味では次のステップというか、進路に向けて今、頑張っているところですよね。

さっき僕は保育士と幼稚園教諭と両方言ってしまったんですけれども,これはどちらか, という感じですか,両方ですか。

#### 〇事例発表者(鼻戸)

まだ迷っていて,でも,幼稚園教諭かなと,今は思っているんですけれども,大学へ進 学してからまた考えたいです。

#### ●知 事

なるほどね。小さなアドバイスをいたしますと、新しい子ども・子育てシステムというのが来年から始まりまして、子ども園という、幼稚園とか保育園がなっていきます。そうすると、保育士と幼稚園教諭の両方を持っているということになっていくと思うので、そういうことも念頭に置いて考えていただけるといいのではないかと思います。制度をやっ

ているので、そんな話もあります。

本当に子供が好きだということで、何でも好きなことをやるのが一番ですよね。

#### 〇事例発表者 (鼻戸)

島に帰ってきて仕事をするのが私の中で優先なので、島でできる仕事だったら、自分は 子供が好きだから、その仕事が向いているんじゃないかと思って、今、それを目指してい ます。

#### ●知 事

なるほど。島も好き、子供も好きということで、理想の職業だなという感じですけれども、そういう強い気持ちがあったら、きっとこれから大学受験とか、あるいは大学生活のいるいろな難しいこともあるのではないかと思いますけれども、きっと乗り越えていけるのではないかと思います。これからうまくいけば、4年、5年後、戻ってこられるということで、いったんは島を離れることになるかもしれませんし、それはとても身になることだと思いますけれども、また改めて鼻戸さんを島にお迎えしたいですよね、皆さん。はい。ありがとうございます。それでは、今は受験生として頑張っている鼻戸さんに大きなエールの拍手をお願いいたします。ありがとうございました。

#### 〇事例発表者 (鼻戸)

ありがとうございました。(拍手)

#### 〇司 会

ありがとうございました。以上で予定の事例発表は終了となります。すばらしい発表を 本当にありがとうございました。

## 閉 会

#### 〇司 会

それでは、ここで湯崎知事に本日のまとめをお願いいたします。

#### ●知 事

ありがとうございました。今日4名の皆さんに発表いただいて、今日は比較的若い人ばかりで、たいていお年寄りの方も発表されることが多いんですけれども、本当にこの島の元気の代表のような方々に発表いただきました。みんな共通して島が大好きだと。またそんなつくったようなことばっかりとか、そういうふうに思われるかもしれませんけれども、実際にこれだけ島を愛していらっしゃる方がとても多いんだなというのを改めて感じます。さっき都会の話が出ましたけれども、都会だと逆に、なかなか自分の住んでいるところを、また育ったところは別なんですけれども、住んでいる場所が好きだというのは、必ずしもそういうふうにはなっていないことが多いです。僕自身は東京に住んでいましたし、今は広島市ですけれども、東京は生まれ育ったところとは違うところですから、住んでい

る今のところが好きだなという感覚ではあまりなかったので、そういう意味で、いろいろな活動をして働きたいとか、勉強したい、あるいは将来の夢を持って戻りたいということを感じることができるというのは、すごく幸運なことではないかと思います。それぞれ、ただお仕事ないしその地域が好きだというだけではなくて、その実現のために実際に動いていらっしゃる。ファームスズキの鈴木さんは大枚をはたいて塩田まで買って、そして、牡蠣を輸出したい、食べてほしいという夢を本当に思われて、それを着々と実行しつつありますし、円光さんも、島に戻って、そして島のことをもっとたくさんいろいろな人に知ってほしいというので、おみやげづくりとかに取り組んでいる。また、学生のお二人も島のことが大好きで、その思いを胸にしながら、次の夢に向かって進んでいる。

地域でも、職場でも、こうだったらいいなとか、ああだったらいいなということがたく さんあると思うんです。でも、こうだったらいいなということを少しでも何か動いてやっ てみる。そのことによって、本当に大きな違いを生んでいくのではないか。周りの人も、 多分助けてくれる人がどんどん出てきて、さざ波のように広がっていくのではないかと感 じます。

毎回こういう発表をいただいて、明日から自分も、今日とは違う何か、いいなと思うことを、いいなと思うだけではなくて、何かやってみるとか、あるいは、今やっていることをもうちょっとよくやってみるとか、そういうふうにつながったらいいなと思いますし、それがきっと積み重なっていくと、今日よりもすばらしい明日の大崎上島、今日よりもすばらしい広島県が、明日、また来年、できていくということではないかと感じます。皆さん、決してスーパーマンということではないと思うんです。それぞれ普通の皆さんで、ただちょっとだけ一歩前に出て何かやってみるという行動がすばらしいのではないかと思います。そのいろいろな行動や思いを共有していただきました4名の発表者の皆様に、もう一度改めて感謝の拍手をいただければと思います。皆さん、本当にありがとうございました。(拍手)

ありがとうございました。以上で今日の県政懇談会は終了とさせていただきたいのですが、最後に一つお願いがございます。広島県では、今、安心な暮らしづくりの一環として、がん対策日本一の実現というのを目指しているところです。先ほども流れていましたが、デーモン閣下の「一体いつ受けるんだ、がん検診」というのをやっていましたけれども、早く見つけて、しっかり治すということがとても大事です。早く見つけるために、皆様方には是非がん検診を受けていただくようにお願いをしたいと思います。

今,がんというのは早く見つかれば治る病気になってきているわけであります。そういう意味では、健康な今こそ検診に行くということがとても大事であります。先ほど申し上げたデーモン閣下にお手伝いをいただいていますけれども、今年は「閣下ダイヤル」というのをつくりまして、大崎上島の場合には町役場に電話したほうが早いのではないかという気もしますけれども、デーモン閣下の声を聞くために電話をいただいても結構です。是

非, 町のほうか, あるいはこの閣下ダイヤルに電話をしていただいて, いつ, どこで受けられるのかということが分かるようになっていますので, ご連絡をいただければというふうに思っております。

以上が私からのお願いでございました。本日はどうもありがとうございました。(拍手)

#### 〇司 会

以上をもちまして「湯﨑英彦の地域の宝チャレンジトーク」を閉会します。ご来場いた だきました皆様、本当にありがとうございました。

なお、ご来場時にお渡ししたアンケートと、地域の宝ネットワークの申込書を出口で回収いたしますので、よろしくお願いいたします。また、地域の宝ネットワークにおいては、フェイスブックによる情報の交流を行っておりますので、是非ご参加をください。

本日はご参加をいただき誠にありがとうございました。どうかお気をつけてお帰りください。ありがとうございました。(拍手)